

正願寺通信

- 正願寺報恩講「案内」
- 墓地管理員加金納入のお願い
- 正願寺来寺の際のお願い

この『正願寺通信』は、ご縁のあるごなたにもお配りします。ご希望の方はご連絡ください。



発行者:真宗大谷派 正願寺 住職 三保谷 順
〒442-0862 豊川市市田町北之坪1-1
Tel 0533-86-3659 FAX 86-3668
Mail mipomail@cream.plala.or.jp

疑謗為縁

疑謗を縁と為す

この道より

我の生きる道なし

この道を歩く

今回は、武者小路実篤の言葉インターネットで検索する中で見つけた言葉です。

仏教は「縁」という事を説きます。一切は「縁」でつながっており、そのことによりすべてが起こつてくるというのです。それが「縁起」という言葉になりました。

お釈迦様は「我(わたし)」を考える時、無数の縁によって成り立つ「我」が出来上がっていると説かれました。

いっても、「この道を歩く」です。自分の人生を歩みだす土台が「この道より 我の生きる道なし」なのです。

そのことを宗教的世界で語った方がおられました。『正信偈』の後半に「善導独明仏正意」(善導独り仏の正意を明かせり)と親鸞聖人が説かれた、中国のお坊さんの善導大師です。次回はそのことを。

真宗入門

御命日のつどいご案内

1月の「つどい」は、正願寺報恩講のためお休みです。

新年1月は、正願寺の報恩講のため、お休みとなります。御命日のつどいは、どなたでも気軽に御参りできる「つどい」です。1月と10月はお休みです。

開催の時は、お数珠(どファイル)だけお持ちいただければ大丈夫。本堂に入る時アルコールで手を消毒し、マスクの着用もお願いします。日時は毎回28日午前10時30分から11時40分までです。

行事のご案内



新年1月の行事

本堂仏具のおみがき

新年1月24日25日と勤めます報恩講のための、本堂御仏具のおみがきをします。是非お手伝いください。

◇日時 1月14日(火)

午前9時から

1時間ほど

その後、お茶とお菓子の雑談会があります。

正願寺報恩講厳修

正願寺報恩講を下記の通りお勤めいたします。

報恩講とは、一年に一度お勤めする親鸞聖人のご恩に感謝するご命日法要で、お寺での一年の行事の中で最も重要な法要です。

親鸞聖人自身が、生まれた意味とその喜びに出会えたことを深く感謝し、90年の生涯を送られました。そして真実

に生きようとする意欲を、南無阿弥陀仏と説かれました。その親鸞という人に会いたい、その思いが報恩講となりました。

朝日新聞の『天声人語』の欄で武者小路実篤の晩年が紹介されていました。「私ももうじき 満85歳になる」「よくも生きていたものと思う。生きている事は嬉しいものだ。死ぬ事はいやなものだ」と。そして、亡くなれる半年前、「わたしはまだ生きている。本気になって生きている。嘘をついて生きてみたいとは思わない。真から本気になって生きてみたい」と語り、90歳で亡くなりました。多くの人から文豪と評価され、色々な活動に取り組み充実した人生だったのでしょうか、なぜ最晩年、「真から本気になって生きてみたい」と語りだしたのでしょうか。ふと、ご自身の人生を振り返った時、ど

ここにかすかな、空しさがあつたのでしょうか。実はこの

「真から本気になって生きてみたい」が親鸞聖人が語る念仏の教えなのです。

親鸞聖人は85歳の頃のお手紙に「目もみえず候う。なにこともみなわすれて候ううえに」と記しています。老眼鏡もなければ、白内障の手術もありません。普通なら意欲も衰え、ダラダラと最後の時を迎えるのでしょうか。ところがその頃から親鸞聖人は積極的な著作活動を始めます。『尊号真像銘文』『入出二門偈』『西方指南抄』『正像末和讃』などの重要な書物を著わされました。その『正像末和讃』の最後は、

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
骨を砕きても謝すべし

なのです。生きることへの感動と意欲が伝わってきます。奇しくも武者小路と同じ90歳で亡くなりました。この生きることへの感動と意欲の出

会いを求めて、報恩講が勤まつてきました。

さて、正願寺の報恩講のご案内です。左記の日程で勤めます。1日目の午前の法要は、お勤めの後、住職より蓮如上人が書き残されました『御俗姓』という御文を解説します。親鸞聖人のご生涯が短くまとめられていきます。ご生涯全般のお話をします。

正午から御齋です。午後1時で御齋を終了します。御齋とは、ご法要の時の食事を指します。『仏事』としていただいてください。

午後1時から御速夜法要です。ご講師をお招きしての御法話がございます。

1月24日(金)

午前11時 『御俗姓』法要

法話 自坊住職

正午から お齋(お食事)

午後1時 御速夜法要

法話 柳野明仁師

1月25日(土)

午前11時 『御伝鈔』法要

法話 自坊住職

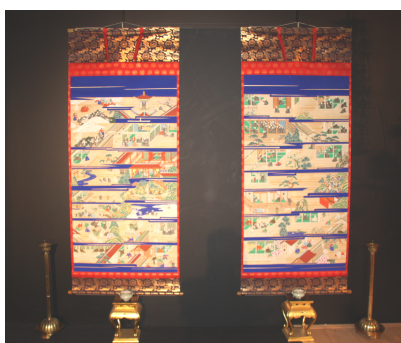
正午から お齋(お食事)

午後1時 御満座法要

法話 桜部 明師

2日目の午前は、『御伝鈔』拝読のお勤めをいたします。

『御伝鈔』とは、親鸞聖人のひ孫の覚如上人がお作りになった親鸞聖人の一代記です。その絵の部分に『御絵伝』という掛け軸となり、報恩講の時だけ本堂の左側に掛けられています。そのお亡くなりになられる場面を中心に住職よりお話しさせていただきます。



本堂の左側に掛けられた御絵伝

正午から午後1時までの御齋の後、午後1時から御満座法要です。ご講師をお招きしての御法話がございます。

正願寺にご縁のある方は、是非お参りいただきますよう御案内申し上げます。

会館を入ったところに受付があります。そこで「お志」

をお納めください。墓地管理冥加金も収めることができます。

ここが会館の入り口です。中に入ったところに受付があります。その奥が御齋会場です。



墓地管理冥加金

納入のお願い

正願寺が管理する墓地に個人所有のお墓をお持ちの方は管理冥加金を収めてください。金額は2千円以上となっています。報恩講にお参りいただいた折に、合わせてお納めいただけます。封筒に「管理冥加金」とお書きください。

正願寺来寺の際の

お願い

正願寺では、住職・坊守のどちらかが極力お寺に居るようになっていますが、どうしても不在の時が出来ます。重要な要件でお越しの際は、事前

に電話等でご確認の上お越しいただければありがたいです。

あとがき

毎月本山から送られてくる宗派の機関誌の敬告欄に、亡なられた住職 坊守の記事が載っています。最初そのページに目が行き、年齢を見ます。今月が一番若い住職は、56歳でした。私より10歳以上も若い。思いつまされます。



年明けて今年も遠慮。独身の頃一人暮らしをする私のもとに、本山や所用を足しに京都へ来る度、父が寄つてくれました。好物を持って、一緒に食事や飲みに行ったり、母とのデートコースをドライブしたり。そんなある日、帰る父の後姿を見て「歳取ったなあ」と思ったのが父還暦の頃か。元気に法要、ゴルフ、美術館、ケーキ屋巡り等楽しんでいただけど、今、我が子に同じ事思われてます。これからを築しもう。



正願寺ホームページのQRコードです。

